

南軽井沢の和食のお店で、ふと目に留まった不思議なものです。大きな瓶いっぱい、黒く硬そうな、左右に鋭い角を伸ばした物体が入れられ、飾られていました。何だろうと思ってお店の方に尋ねると、「ヒシの実ですよ。食べられます」とのこと。これが池や沼の水面を覆う水草、ヒシ（菱）の果実だったのです。

ヒシは夏に白い小さな花を咲かせ、受粉後、水中でこの特徴的な果実をつくります。写真の黒いものは「種」ではなく、植物学的にも文字どおり「実」、つまり果実です。鋭い角を含む外側は非常に硬い果皮で、その中に大きな種子が一つ収まっています。種子にはデンプンを多く含む大きな子葉があり、茹でたり蒸したりすると食べることができます。秋に熟した果実は水底に沈み、硬い果皮に守られながら冬を越し、翌春以降に発芽します。

ところでヒシは、「菱形」の「菱」の名のもとになった植物として知られています。しかし、この実をいくら眺めても、私にはどうも「菱形」には見えません。むしろ左右に大きく張り出した鋭い角が翼、その中央の盛り上がった部分が頭や胴体のようで、どう見てもコウモリです。こうして何個も並べてみると、なおさら夜空をこちらへ向かって飛んでくるコウモリの群飛そのもの。食用になる植物の果実と知ってなお、この少々妖しげで、どこか愛嬌のある姿から目が離せませんでした。

(2026 年 8 月中旬／南軽井沢／背景は合成)

